



並び立つ薬師、阿弥陀、釈迦如来。三者三様の穏やかな表情に注目（ホキ石仏第一群）

国宝白杵石仏

●こくほううすきせきぶつ

☎0972-65-3300（白杵石仏事務所）

（白杵）MAP P12C2

平安～鎌倉時代、凝灰岩の岩壁に刻まれた磨崖仏群で、4群61体すべてが国宝に指定。古園石仏群の大日如来像は、長い間落下していた仏頭が平成5年（1993）の保存修理で元の位置へ。覆屋の設置でコケの繁茂や急激な温度変化が抑えられ、保存状態も向上している。

④白杵市深田804-1 ⑤大分港から車で40分 ⑥拝観550円 ⑦9～17時（最終入場16時30分）⑧無休 ⑨83台

岩肌に刻まれた千年の祈り
日本が誇る磨崖仏群



大日如来を中尊として、諸仏が並ぶ古園石仏



削り出された山肌が物語る
石灰石のまち

セメント工場風景

●せめんとこうじょうふうけい

☎0972-82-9521（津久見市観光協会）

（津久見）MAP P12C2

津久見市はセメントの原料となる石灰石の産地。鉱山と工場、出荷港が近接し、岸近くまで水深があるリアス海岸の地形を生かして、セメント産業が発展した。石灰石を運ぶ太いパイプラインが街を走る、迫力ある光景に圧倒される。

凝灰岩の石量沿いに武家屋敷や寺院が並ぶ「二王座歴史の道」

工場群と石灰石の白い山肌が圧巻



港沿いに明かりが灯る、津久見ならではの夜景

人情とセメントの街の新名物！

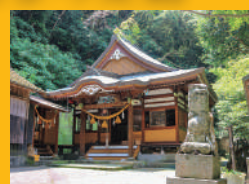
つくみ お石灰せんべい

「石灰」と「おせっかい」な市民性を掛け合わせて誕生した、津久見らしいユニークな銘菓。「つくみマルシェ」や観光協会、市内のコンビニなどで販売している。



蒲江を支えた名家の足跡

王子神社の神殿は、正徳5年（1715）に改築された九州最南端の春日造り。棟札には、大庄屋を勤めた御手洗家の名が見える。近くには、この御手洗家の出身で経団連名誉会長であり、キャノン会長CEOでもある御手洗富士夫氏の生家がある。「キャノン」の名は「観音」に由来するとされる。一方、御手洗家裏山の神社から東に伸びる山道には33体の観音像が祀られ、地元では「観音山」と呼ばれて親しまれているが、偶然だろうか。



蒲江浦を見下ろす高台に鎮座する

石に刻まれた 時をたどる

国宝白杵石仏と、石灰石の採掘によって姿を変えてきた津久見の山々。祈りと産業、それぞれの営みが長い歳月をかけて石に刻んだ地を訪ねよう。

南蛮文化の面影が息づく
城下町をそぞろ歩き



白杵城下町

●うすきじょうかまち

（白杵）MAP P12B2

戦国時代、大友宗麟が白杵城を築いたことに始まり、江戸時代には稲葉氏のもとで発展した城下町。宗麟の時代には海外との交易も盛んに行われ、南蛮文化が花開いた。今も随所に往時の面影が残る。

④白杵市二王座192-6周辺 ⑤大分港から車で45分



江戸時代末期に建てられた酒蔵「久家の大蔵」。外壁をボルトガルと白杵の交流を表現した装飾タイル「アズレージョ」が彩る

大分県南部、豊後水道に面する白杵・津久見 佐伯。豊かな海の恵みは人々の暮らしを支え、独自の食や文化、風景を育んできた。海から広がる3つの街を訪ね、そこに息づく物語にふれる旅に出かけよう。

海街の旅

太古から海と歩むストーリー



海に向かって立つ鳥居は絶好のフोटスポット

江武戸神社

●えぶとじんじや

☎0972-23-3400（佐伯市観光案内所）

（佐伯）MAP P12C3

安和元年（968）創祀と伝わる古社。かつてこの地から船出する際、海上安全と武運長久を祈願していた。豊漁の神としても信仰を集め、例祭では色鮮やかな旗を掲げた漁船が鳥居前に並んだという。

④佐伯市蒲江畑野浦2682 ⑤大分港から車で1時間30分 ⑥⑦⑧参拝自由 ⑨10台

海街に生きる人々を
見守る古社へ

海とともに生きる 神秘の風景

波穏やかな海と入り組んだリアス海岸が織りなす美しい風景。海に寄り添う漁村の暮らしと、その土地に息づく物語をたどろう。

イルカのびと暮らす
イルカたちと出会う



海を舞台に繰り広げられる「イルカパフォーマンス」は迫力満点！

うみたま体験パーク「つくみイルカ島」

●うみたまたいけんぱーく「つくみいるかじま」

☎0972-85-3020

（津久見）MAP P12C2

イルカパフォーマンスやふれ合い体験が楽しめる体験型施設。開園以来、毎朝行っている海洋ゴミ拾いや、回収した流木を活用したワークショップなど、環境問題を楽しむ学べる取組みにも注目が集まる。

④津久見市四浦2218-10 ⑤大分港から車で1時間 ⑥入場1300円 ⑦10～16時（季節により変動あり）⑧1月中旬～2月中旬はメンテナンス休業あり ⑨150台



「イルカとあそび！」では1名2000円で握手などのふれ合いが楽しめる

「神の井」は神武天皇が弓を突き立てると清水が湧き出たと伝わる井戸



佐伯湾に浮かぶ
神話と伝説が息づく島

大入島

●おおにゅうじま

（佐伯）MAP P12C2

佐伯港からフェリーで約7分、周囲約16.4kmの島。海岸線や集落を歩く九州オルレ「さいき・大入島コース」が整備され、島の風景を楽しめる。自転車での島巡りもおすすめ。

大入島フェリー

☎0972-23-2880

運賃：片道200円 自動車賃：1台1000円～

便数：佐伯港から1日13便

URL www.oitasima.net/ohnyujima/access.html



小さな湾に延びる堤防「海の細道」。九州オルレのコースにも含まれている